

「アールスメロン夏」・「アールスメロン秋冬」の品種特性と栽培技術

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜栽培・特産部

研究のねらい

近年、アールスメロンの抑制栽培が急増しているが、ハウス地床という栽培条件のため、従来の品種では水管理等の良否により生産が左右されやすく、ネット・玉太り・糖度などの品質も一定していない。

このたび、高級メロンの風格を有し、収量・品質が安定しており、栽培が省力・低コストである品種を模索した結果、「アールスメロン夏」及び「アールスメロン秋冬」が適当であると認められたので、品種特性と栽培技術について検討した。

研究の成果

1. アールスメロン夏

- (1) この品種は、「夏系アールス」の選抜優良系統と「真珠100」の分離後代選抜系統のF₁で、7月下旬～8月上旬播種に適し、高温適応性が高いため雌花着生が安定しており、つる割病・うどんこ病に耐病性があり、作りやすい。
- (2) ネットの発現は極めて良好で、果肉はやや青味がかって硬く、メルティング質にやや欠けるが、糖度は高く安定しており、成熟日数は55日内外を要する。
- (3) 栽培にあたっては、ウイルス病が発生しやすい時期なので、育苗時から寒冷紗を用いアブラムシを防ぐ。土壌消毒を怠ると、つる割病やネコブセンチュウ、最近では黒点根腐病などが発生しやすいので注意する。また、立枯性疫病の発生が多い時期なので、灌水には、河川などの流水を用いず、地下水を使用することが望ましい。
- (4) 栽培土壌は、堆肥等を入れ土作りに努め、有機質肥料などを用い、栽培期間に平均して肥効が現れるようにするとともに、定植以降の水管理によって根が深く広く張るようにする。このことは、急性萎凋症やこの品種に発生が多い黄化葉症の発生防止にも役立つ。
- (5) ネット出現期に極端な蒸し込みを行うと、ネットの発現が遅れて不良ネットとなるので特に注意する。

2. アールスメロン秋冬

気象等の環境の変化に対して適応性が極めて高い。

8月上旬～8月中旬播種に適し、「アールスメロン夏」同様の特性を持つ。果実の肥大性は良いが、8月15日より遅い播種では加温を要する。

栽培の留意点は、「アールスメロン夏」に準ずる。



写真1 アールスセイヌ夏

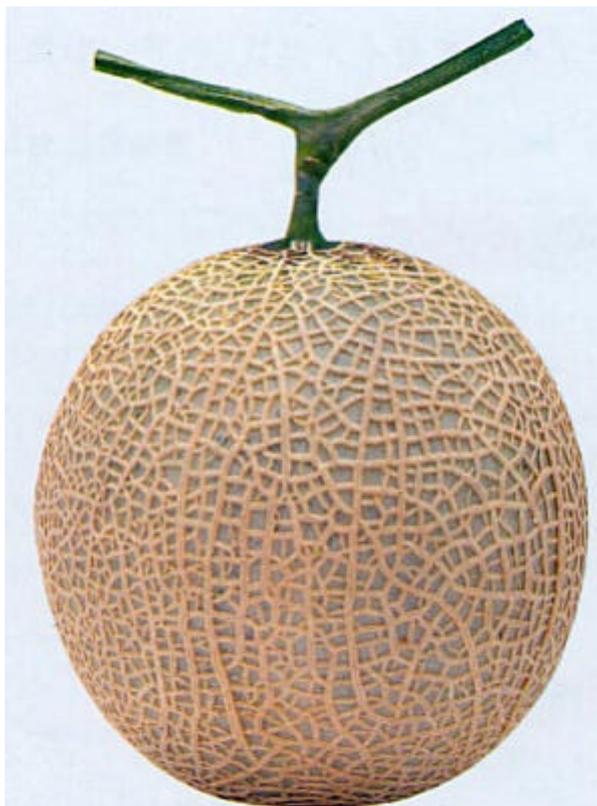


写真2 アールスセイヌ秋冬

表1 品種の特性

品 種	果実の 大きさ	果実の そろい	ネットの 発現性	糖 度	食 味	総 合 判 定
アールスセイヌ夏 アールスセイヌ秋冬 サンデー秋型 南勝アールス夏秋系						